

ガバナー月信 2025-2026 Vol.14



Rotary International District 2500

Governor's Monthly Letter 2025-2026

Vol.14

2026.8.1

Rotaryのことを熱く語ろう！
～Rotarian Benefitsを紡ぎ、そして育むために～

ガバナーメッセージ

2025—2026年度を振り返って（ガバナー補佐・各委員長）

IM 開催報告

地区補助金事業報告

新入会員紹介・寄付者報告

例会出席率 & 会員数推移



盛夏の陽光がひととき輝きを増す季節となりました。会員の皆さまにおかれましては、2026-2027年度もご健勝にてロータリー活動にご尽力のこととお慶び申し上げます。

いよいよ本号をもちまして、ガバナー月信の最終号をお届けする運びとなりました。今までガバナー月信にご寄稿いただきました会員の皆さまに感謝申し上げます。ガバナー月信は、単なる地区の情報を提供する広報誌ではなく、地区とクラブ、そして会員同士の思いをつなぐ架け橋でありたいと思い、釧路北 RC の月信担当委員と内容につき侃々諤々と協議をしながら制作してきました。各クラブの取組みやローターアクト、インターアクトをはじめロータリー会員の活動を共有することで、新たな気づきや励ましが生まれ、ロータリーの輪がさらに広がることを期待して編集を重ねてまいりました。誌面の都合上、皆さまの期待に沿えない部分もあったかもしれませんが、地区の歩みを記録し、情報を共有し、そして会員一人ひとりの奉仕への思いをつなぐ媒体として、今後も皆さまに親しまれ、活用されることをパストガバナーとして心より願っています。

また、本年度よりガバナー月信を紙ベースからデジタル配信へ変更し、各クラブの月信購入費の経費負担を一切なくし、会員の会費減額を進めました。紙面からデータに変わったことによる多少の違和感があった会員もいたかと思いますが、変更に対して会員皆さまのご理解とご協力に感謝いたします。

地区の代表であるガバナーとして1年間活動をさせていただきましたが、その中で私が一番大切に思っていたことは、「正義感をもって挑む」ということでした。正義感は言葉的には、正しいことを行おうとする気持ちや態度になるかと思いますが、ロータリーにおける正義感の私見は、「将来を見据え、一人ひとりのロータリアンの皆さまが、ロータリーに対する情をいっそう燃やしてもらうよう、言行において信念を持って“しかけていく”」ことです。私の発言、行動、文章など、全ての言行において「正義感をもって挑む」ことを大切に活動してきました。

会員の皆さまに対しての「しかける」は、せっかく会った機会なので、出来るだけ多くの人と会話や飲食を共にして、ロータリーに対する思いやその人の生き様や人となりを知りたいとの思いで、自ら進んで話しをするよう「しかける」ことを心掛けてきました。「熱く語り」心が通じ合えた時は、本当に感無量でありました。

事業や事象において私の考える「しかける」とは、時代の変化に対応し、常に変革の気持ちで進んでいくという意味ではなく、どちらかと言えば「不易流行」の思考に近く、各々の事業や事象において、「変革・保留・廃止」すべきことを、組織のトップであるガバナーが、決してトップダウンの手法でなく、多くの会員からの納得と共感をもって挑んでいくということです。そして大事なことは、廃止する場合は、その後に必ず新しい変革に繋がる基礎を創ってから行動することだと思い、様々なことを「しかけて」きたつもりです。

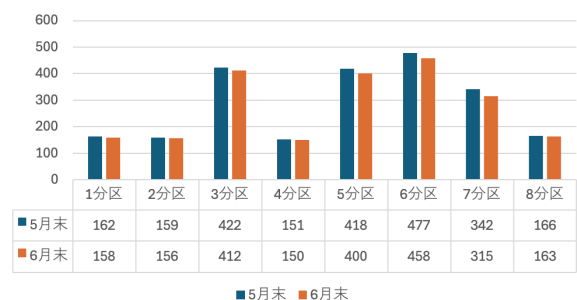
今思えば、いろいろなことを自問自答しながら、ガバナーとしての責務を果たすよう取り組んできたと思います。なんとか役職を全うできたのも、ほんとうに地区内の会員の皆様からのご支援の賜物と思っております。心から感謝申し上げます。

2026-2027年度は、第2500地区副ガバナー、第1地域ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 (ARPIC)、第1地域バルセロナ国際大会推進委員として、初心に戻りロータリーをしっかりと学び、皆さまにロータリーの魅力を伝えていきたいと思っています。

最後になりますが、会員の皆さまのご健勝とご活躍を祈念し、また2027年6月に開催される「バルセロナ国際大会」で、多くの会員の皆さまと一緒に「Enjoy Rotary!」出来ることを切願し、最終のガバナーメッセージといたします。1年にわたりお付き合いいただき、誠にありがとうございました。

6 月末会員数

2500地区合計 2212名
期首会員数 2205 名から7名増



2025-2026 年度を振り返って

第1 分区ガバナー補佐 常磐井 武栄（利尻島ロータリークラブ）



2025～2026年度の国際ロータリー第2500地区第1分区ガバナー補佐の大役を仰せつかり、広大な第1分区内の7クラブとの交流と親睦、そして友情の輪を築きあげるべく、1年間のロータリー活動を共に楽しく活動出来ました事に、先ず以て各ロータリアンに感謝を申し上げたく存じます。各クラブでの公式訪問をはじめ、各行事への参加をさせていただき、ロータリーの醍醐味である協調性と友好の懸

け橋づくり、そして笑顔での奉仕活動の展開、魅力溢れる様々な活動を通じて地域経済を支える逞しい姿を見て参りました。地域とロータリーが一体となって取り組む姿勢こそ、真のロータリアンであると同時に、1人の人間としての大切な何かを奮い立たせる信念と行動力は、ロータリー活動の奉仕の原点であり感銘を受けた次第です。各クラブでのロータリー理念の学識を共有しながら、会員増強を目指し各クラブとの切磋琢磨した第1分区のガバナー補佐を担当できた事に、改めて感謝と敬意を表したく存じます。ロータリー活動が少しでもスムーズに展開出来るように、最善を尽くして佐渡ガバナーと共に1年間ガバナー補佐として支えて参りました。私たちが目指すロータリービジョンは、まさに激動の時代へと移り変わりますが、正々堂々としたロータリーライフを今後も継続して盛り上げていただけたら幸いに存じますし、生きるやりがいへと繋がる確かなロータリー精神を抱きながら、元気・やる気・勇気を持って第1分区各クラブの隆盛と繁栄を祈念申し上げ、感謝の言の葉とさせていただきます。1年間、ありがとう御座いました。

第2 分区ガバナー補佐 西浦 岩雄（中頓別ロータリークラブ）



突然ガバナー補佐の指名を受けてから約2年まさか私にこんな大役が回ってくるとは思ってもみなかったの débし考えました。

私の所属する第2分区はクラブ数も5つで少ない分区に属すると思いますが、ガバナー補佐も準備期間から含めると2年近くガバナー補佐としてかわって参りました。特にガバナー訪問では、各クラブのメンバーが私を快くカバーしていただき何とか終了することが

できました。わたくし個人的にはこの年齢で釧路までの約300 Kmを超える車の運転は心身的には大変でした。改めて2500地区の広さを痛感しました。

しかし佐渡ガバナーについては、第1分区から第8分区まで北海道の東半分をガバナー訪問や IM を中心に駆け巡り走行距離はいかばかりかと、ねぎらいの言葉をいくらかけても足りないぐらいだと思います。

半面第2分区のガバナー補佐として行動力のなさやロータリークラブに対してほとんどわからないことが多く迷惑をかけたことを反省しています。

最後になりますが、ガバナー訪問や IM を通して各クラブに事前に何い心温まるもてなしを受けたことは今も楽しい思い出として心に残っています。第2分区のみなさんには大変お世話になりました。改めて感謝とお礼申し上げます。

とくに IM を担当した士別ロータリークラブの方々には何度も事前会議を開催し万全を期してその日に備えていただきました。士別の皆さんありがとうございました。

これからもこの経験を宝にロータリー活動を続けていきたいと思っています。

第3 分区ガバナー補佐 吉川 裕二（旭川北ロータリークラブ）



国際ロータリー第2500地区第3分区のガバナー補佐を拝命し、皆様のご理解とご協力のものと、1年間の務めを無事に終えることができましたことに心より感謝申し上げます。

当年度、佐渡ガバナーのスローガンは「Rotary を熱く語ろう！ Rotarian Benefits を紡ぎ、そして育むために」であり、ロータリアンの使命を自覚し、活動による充実感や満足感などの体験を「紡ぎ」Rotary に対する「夢や想い」を大切に育むことが必要としたもので、その方針に、理解と共有を図るため、クラブ会長を始めとする皆様に情報の伝達だけでなく意見交換をしてまいりました。

また「クラブの活性化と連携強化」を目標として、分区内各クラブとの対話をし、クラブ協議会、公式訪問や各種行事への参加を通じて、それぞれのクラブが抱える課題や特色を直接伺うことができたことは、大変意義深いものであり、特に会員数の維持・増強、例会運営の工夫、地域社会との関わり方などについて多くを学ばせていただきました。

4月18日の第3分区インターシティ・ミーティング（IM）においては、旭川北 RC の皆様の協力により、分区内クラブの親睦と学びを深める場として充実した開催となりました。多くの会員が関わり、それぞれの役割を果たされたことは、ロータリーの奉仕の精神を体感するものであり、成果の一つであったと考えております。

また5月23日24日に開催された2500地区事業のインターアクト地区大会にもスポンサークラブとして旭川北 RC の協力を頂き感謝申し上げます。

さらに6月14日からの台北での国際大会に第3分区から多くの方々に参加を頂きました。旭川北 RC から多くの参加を頂きましたことに厚くお礼申し上げます。

さて、会員の高齢化や入会促進の難しさ、例会出席率の低下など、共通する問題に対しては、今後柔軟な発想と新しい取り組みが求められます。デジタルの活用や例会形式の多様化など、時代に即した運営の検討も必要であると感じております。

この1年間を通じて、ロータリーの本質は「人と人とのつながり」にあることを改めて実感いたしました。各クラブがそれぞれの地域で果たしている役割は大きく、その活動が地域社会に確かな価値を提供していることを強く認識いたしました。

結びに、活動に際し、ご指導、ご支援を賜りました佐渡ガバナーをはじめ、第3分区内各クラブの皆様、北 RC の皆様、そして関係各位に深く御礼申し上げます。今後ともロータリー活動のさらなる発展と地域社会への貢献が一層進むことを心より祈念いたします。

第4 分区ガバナー補佐 菅原 博（興部ロータリークラブ）



約2年前、興部クラブからガバナー補佐を選ぶ際、人選が難航し、地区にはずいぶんご迷惑をおかけしました。当時のクラブ幹事から「菅原さんの名前でご報告しました、もうこれしかありません」と告げられた時は悲しい気持ちにもなりましたが、あっという間の2年、楽しい思い出もさせていただきました。

ガバナー補佐という大役を仰せつかるのは2度目になります。前回に比べ、かなりやるが増えたな…というのが当面の正直な感想でした。佐渡さんという若いガバナーのエネルギーに感化され、自分なりに分区内にその思いを伝えていけたかと考えています。

最大のイベントである IM も概ね成功裏に終えることができましたと安堵しています。

佐渡ガバナー・平井地区幹事・ガバナー補佐仲間と顔を合わせるうち、やはりロータリーは良いなと、分区内・クラブの仲間の繋がりは素晴らしいなと、改めて実感でき、感謝いたします。「紡ぎ、育む」、この達成感を、次代の仲間へ伝えていこうと思っています。

2025-2026 年度を振り返って

第5分区ガバナー補佐

田中 栄治（網走西ロータリークラブ）



振り返りますと 多くの皆様との出会いとご協力に支えられた実りある一年であったと感じております。

地区の活動を通じて 各クラブがそれぞれの地域に根差しながら奉仕の理想を大切に活動されている姿に触れ ロータリーの持つ力と可能性を改めて実感いたしました。

先日 ガバナー補佐 最後の会合にて ガバナー補佐同期会が発足し 一年に一度は必ず会う約束を交わしたことが この一年の象徴だと思っています。この一年間 関係各位の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

第6分区ガバナー補佐

石原 英樹（帯広西ロータリークラブ）



ガバナー補佐としての期間を振り返り、ロータリーの在籍年数が長い割にはそれほど活動していない私に「ガバナー補佐をしてみたいは？」と声をかけて頂いた小谷バスターガバナーに感謝致します。素晴らしい経験をさせて頂きました。

第6分区 11 クラブへはガバナー公式訪問・クラブ協議会を入れ計5回の訪問をさせて頂きました。

各クラブ共、温かく迎えてくださりました。食事も美味しく、素晴らしい景色の見える例会場もあり、クラブ毎個性豊かな例会等でありました。

会員増強の件では煽るような話をしてしまったクラブもあり、大変失礼を致しました。

IM に関しましては成功裏に終えることができました。ありがとうございました。

ガバナー補佐としてお役にたてたか疑問に思う所はありますが、皆様のご協力とご支援に感謝申し上げます。

佐渡ガバナー・平井幹事を始め地区関係者の皆様、各分区ガバナー補佐の皆様には大変お世話になりました。

さらに第6分区各クラブ会長・幹事・会員の皆様、そしてセクレタリーの皆にも心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

第7分区ガバナー補佐

平澤 利秀（釧路北ロータリークラブ）



今年度、佐渡ガバナーより指名をいただき、8名のガバナー補佐と共に活動させていただきました。今更言うまでもなく、ガバナー補佐の役目はガバナーの方針をしっかりと呼び込め、分けて伝える事と IM の運営だと思っています。佐渡ガバナーの重点目標であります、地区内2500名の会員増強、ファンディングの数値目標、ロータリーを

熱く語ろうの思いを少しでも実現できる様に活動させていただきました。全てが目標達成とはいきませんでしたが、8名のガバナー補佐達と意見交換しながら年間楽しく活動する事が出来ました。貴重な経験をさせていただいた事に感謝申し上げます。

また、IM の開催についても釧路北クラブの会員の皆様に多大なる御協力とご理解をいただき、無事に終えることが出来ました。重ねて感謝申し上げます。

長いようであると言う間に終わった感がありますが、2500地区の為に少しでも力になれたのなら幸いです。

これからも地区の発展の為に一会員として活動させていただきます。

一年間、本当にありがとうございました。

第8分区ガバナー補佐

加藤 勤也（浜中ロータリークラブ）



第8分区ロータリアンの皆様方の多大なるご理解とご協力、そして熱い友情をいただき、力不足ながらも、佐渡ガバナーの補佐としてなんとかその任を全うすることができました。

年度開始前のクラブ協議会やガバナー公式訪問におきましては、各クラブの温かいお心をいただき、インターシティミーティング（IM）におきましても、多くの学びと皆さんの笑顔、そして励ましのお言葉を頂戴いたしました。また、地区の諸事業や他分区的 IM 参加では、各地のロータリー活動が地域社会と共にある姿を肌で感じることができ、「クリーンアップ事業」では、IM でフォーカスした霧多布湿原周辺でのゴミ拾いを通じて、自然環境保全の意義を改めて実感いたしました。さらに、藤元の浜中ロータリークラブにおいては、活動へご理解とご支援をいただきました。

この貴重な経験を得られたことに感謝を申し上げますとともに、今後は奉仕の実践を通じてご恩返しができますよう、尽力してまいります。誠にありがとうございました。

2025-2026 年度を振り返って

会員増強委員会委員長／地区幹事 平井 昌弘（釧路北ロータリークラブ）



2025-2026 年度が無事終了し、地区幹事兼地区会員増強委員長として駆け抜けた1年間、そしてガバナーノミニデジネット時代から数えると約3年半にわたる活動に一区切りを迎えることができました。

今振り返ると、本当にあっという間でありながら、非常に濃密な時間であったと感じています。地区幹事として、ガバナーの女房役という重責を担いながら、地区内各クラブとの連携、ガバナー公式訪問、地区大会や各種研修会・セミナーの運営など、多くの事業に携わらせていただきました。また、地区会員増強委員長として、会員維持・増強というロータリーの将来を左右する重要な課題にも取り組んでまいりました。

決して順風満帆なことばかりではありませんでした。日々の調整や課題への対応、時には難しい判断を迫られる場面もありました。しかし、そのたびに多くの仲間たちが手を差し伸べてくださり、支えてくださったことで、一つひとつの壁を乗り越えることができました。

特に印象に残っているのは、地区内の多くのロータリアンとの出会いです。公式訪問や地区行事を通じて、それぞれのクラブが地域のために真摯に活動されている姿に触れ、多くの学びと刺激をいただきました。そして何より、ロータリーの根幹にある「奉仕」と「友情」の精神を改めて実感する機会となりました。

この3年半を通じて強く感じたことは、ロータリーは制度や組織は固より、人と人との信頼関係によって支えられているということです。一人で成し遂げられないことも、多くの仲間の力が集まることで大きな成果へとつながる。そのことを身をもって学ばせていただきました。

また、地区幹事として最も近くでガバナーを支えさせていただいた経験は、私自身のロータリー観を大きく広げてくれました。ガバナーの思いを地区へ伝え、地区の声をガバナーへ届ける。その架け橋となる役割を務められたことは、私にとってかけがえのない財産です。

この間、ご指導ご支援を賜りましたガバナーご夫妻をはじめ、地区役員、ガバナー補佐、地区委員会の皆様、各クラブ会長・幹事の皆様、そして所属する釧路北ロータリークラブの仲間たちに心より感謝申し上げます。また、多忙な活動を理解し支えてくれた家族の存在にも深く感謝しています。

長かったようで短かった3年半。多くの出会いと学び、そして数え切れないほどの思い出をいただきました。この経験を今後のロータリー活動に生かしながら、引き続き一会員として奉仕の理念を大切に歩んでまいりたいと思います。

関わっていただいたすべての皆様に、心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

危機管理委員会委員長 湯浅 秀昭（旭川北ロータリークラブ）



「危機事案のない地区」を目指して

皆様には、日頃よりロータリー活動に対し深いご理解とご協力を賜り、心より敬意と感謝を申し上げます。

この約1年間、当地区ではハラスメントに認定される事案は発生せず、大きな危機事案もなく活動を終えることができました。これは、各クラブ並びに会員の皆様が危機管理への意識を高く持ち、日頃からご配慮いただいた成果であり、心より感謝申し上げます。一方で、地区の活動を振り返ると、さらに配慮や準備を徹底すべき場面もあったと感じております。

今年度は、地区補助金チームの本間リーダーをはじめ、地区補助金事業を実施する各クラブの担

当者から、危機管理に関する相談や問い合わせを数多くいただきました。その際には、青少年が関わる事業では適切な引率体制が確保されているか、開催地域のハザードマップを事前に確認しているかなど、事前準備の重要性についてお伝えするとともに、全国組織である一般社団法人国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構（RIJEM）の危機管理委員長会議資料を参考資料として提供し、危機管理意識の共有に努めました。

また、ご要望をいただいたクラブには、危機管理に関する卓話を行いました。2025年7月9日には北見ロータリークラブ、2026年5月21日には稚内ロータリークラブを訪問し、危機管理についてお話しする機会をいただきました。いずれのクラブも安全管理に対する意識が非常に高く、活発な意見交換ができたことを大変嬉しく思っております。ご招待いただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

2026-2027年度の地区組織図をご覧いただくとお分かりのとおり、危機管理委員会は従来の青少年部門から独立し、地区全体を横断する委員会として位置付けられました。

もともと危機管理委員会は、国際ロータリーの重要なプログラムである「青少年交換プログラム」において、参加する青少年が事故や事件、ハラスメントなどの被害に遭うことを未然に防止することを目的として設置された委員会です。しかし近年では、その役割は「米山奨学制度」をはじめ、地区が実施するさまざまな事業へと広がり、現在では「ロータリー及びロータリアンのための危機管理」全般を担う重要な委員会として位置付けられています。

私自身、この3年間、危機管理委員長を務めさせていただきました。まだ取り組みたい課題や実現したいことも残されていますが、それらは次期委員長へしっかりと引き継ぎ、さらに充実した危機管理体制が築かれていくことを願っております。

今後も「危機事案のない地区」の実現に向け、会員の皆様一人ひとりが危機管理意識を持ち、安全で安心なロータリー活動を継続していただけますよう、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

3年間にわたり、皆様から賜りました温かいご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

ライラ委員会委員長 川村 真一（釧路北ロータリークラブ）



ライラ委員会では、次代を担う若いリーダーの育成を目的とした「ロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）」の普及と充実に取り組みました。

令和8年5月16日・17日の2日間、釧路市山花温泉リフレを会場に、第42回RYLAセミナー「PFI2500！（Passion（情熱）・Friendship（友情）・Initiative（率先））」とし、セミナーやグループワーク、参加者同士の交流を通じて、コミュニケーション能力や問題解決能力、リーダーシップを実践的に学ぶ機会を提供しました。

また、地区スローガンである「“Benefits（恩恵）”に感謝し、一つひとつの活動から得られる満足感や充実感を紡ぎ、Rotaryへの愛や夢、想いを育む」という理念を活動の柱とし、参加者が新たな仲間との友情を育み、自らの可能性を発見し、地域社会で主体的に行動する意欲を高められるよう努めました。

第2500地区をはじめ各ロータリークラブ、ホストクラブである釧路北ロータリークラブの皆様のご支援とご協力により、無事に委員会活動が出来ましたことに、感謝申し上げます。

ロータリー青少年交換委員会委員長 喜多 俊晴（紋別ロータリークラブ）



2025-26年度青少年交換プログラムはD2500とタイのD3330との間で交換が実現いたしました。

タイからタターナ・ノイノントン君が25年8月に来日をし、音更RCがホストクラブを務め帯広大谷高校に通いました。

26年7月の帰国まで充実した日本での生活を送りました。

期間中12月に札幌でのインターナショナルナイト、2月に札幌雪祭り、5月にはRYE研究会福岡会議にも出席し全国の本年度のインバウンド学生と交流を深めることができました。

派遣学生として行木仁愛さん（帯広大谷高校）がタイのブーケット（D3330）に25年8月に出発、一年を過ごしました。ホストファミリーにも恵まれ充実した一年を過ごすことができました。

2026年6月20日、佐渡ガバナー、山本ガバナーエレクトにも出席を賜り帰国報告会を執り行いました。

帰国したばかりの行木さんと帰国目前のタターナ・ノイノントン君から一年間の滞在生活が紹介され、その成長ぶりを充分にうかがうことができました。

最後にガバナーから修了証が手渡され報告会が閉められました。

本年、音更RCはじめ沢山の協力を受け二人の交換が無事終えられたことに感謝申し上げます。

2025-2026 年度を振り返って

職業奉仕委員会委員長

足立 功一（釧路北ロータリークラブ）



国際ロータリー第 2500 地区、2025 年～26 年 佐渡正幸ガバナー年度が終了した。

佐渡ガバナーは、今年度の活動重点目標を会員増強に絞り、34 地区でもトップの結果を残す事ができた。これは活動目標を絞り、いろいろ手を広げなかった事が功を奏した。

また、地区でも様々な新しい試みが行われた。まず一つ目は、ガバナー月信の改革である。これにより企画が多角化し、新しいレイアウトや文字サイズに自由度が増した事で、誌面の充実が図られた。その結果各クラブの月信の金銭的負担を軽減する事が可能となった。

二つ目は、地区大会の企画・進行を自分達の手で行なった事である。

それまでは、毎年画一的な内容で、特別講演は外部委託による芸能人やタレントを起用する事もあり、講演内容に比較して、かなり割高な金銭的負担を強いられてきたが、この現状を改革してくれた。

特に、特別講演にはモンゴル国から米山記念奨学生であったジャンチブ先生を招聘してガバナーとの対談を企画。そして釧路北クラブと姉妹クラブのフレロータリークラブとの絆から発した姉妹地区提携など、これから 2500 地区とモンゴル国との親睦と交流を通して、グローバル社会における国際交流の大切さを考え直す良い企画であったと考える。

この後は、次年度に向けて、ロータリーの歴史をしっかりと勉強し、そこから形成されてきたロータリー理論や、哲学などの研鑽を怠らない事が大切であろう。会員の質的向上と親睦の強化と奉仕の実践を伴わない会員増強は、絵に描いた餅になってしまうと言わざるを得ない。これからはクラブ研修委員会の本領を発揮していただきたい。

長年ロータリーに入っていると、毎週の例会のマンネリ化や、研修の希薄化でロータリー活動に飽きが来るようになるのは致し方がない面もあるが、私にとって今のロータリーの楽しさは、世界各国のロータリアンと交流し、その地域の様々な問題を共同で解決する事に少なからず喜びを見出している。この事で日常のストレスを軽減し、メンタルヘルスを良好に保つ為の有効なアプローチとなっていると考えている。その為には、少しでも時間を作って現地に足を運び、人々との交流を通して自分自身の奉仕の心を錆びつかせないようにしたいと考える。

今は本職を離れ、ロータリーでの小さな達成感や心地よい感覚に意識を向けることで、日々の幸福感を感じようと日々活動している。

社会奉仕委員会委員長

山岸 弘典（釧路北ロータリークラブ）



若輩の私が地区社会奉仕委員長を務めることになったのは、佐渡正幸ガバナーから「環境問題に取り組みたい。若いメンバーで実働する活動を」と声を掛けていただいたことが始まりでした。釧路 RC の濱口憲太会員の力もお借りしながら、活動計画や CLLS 分科会の準備を進め、当日の無茶振りにも快く応えてくださった皆様に心か

ら感謝しています。

年度が始まると、各分区から心強い委員が集まり、多くの仲間と交流を深めることができました。昨年 10 月には第 7 分区で約 100 名による海岸清掃を実施し、地区大会や環境問題オンラインセミナーなど、貴重な経験にも恵まれました。

そして年度末には、地区一斉クリーンアップ事業を実施し、多くの分区・クラブから活動報告をいただきました。皆様の行動が、地域の環境保全への大きな一歩となったことを誇りに思います。ジェットコースターのような一年でしたが、皆様と駆け抜けることができたことは一生の財産です。本当にありがとうございました。

米山奨学会運営委員会委員長

帰山 哲雄（北見ロータリークラブ）



2025-2026 年度第 2500 地区佐渡ガバナーのもと、米山奨学会運営委員会委員長を務めさせていただきました。米山奨学生 11 名を迎え、受け入れていただいた各クラブ様、そしてカウンセラーをお引き受けいただいたロータリアンの皆様に感謝申し上げます。

今回の地区大会では例年と違った設えで、モンゴルからジャンチ

ブ・ガラバドラッハ氏をお迎えし、米山奨学生とカウンセラーの皆様で「ジャンチブ氏を囲む会」（昼食会）を開催しました。

ジャンチブ氏も 35 年前に米山奨学生であった経験をお話いただき、現奨学生達に米山奨学会の事業の素晴らしさを伝えていただき、私たち委員会も米山記念奨学会の事業の素晴らしさを再認識し、継続することの重要性を改めて感じました。

2500 地区のクラブの皆様には、改めて感謝と御礼を申し上げますとともに、引き続き米山奨学会事業へのご理解と行力をお願い申し上げます。一年間ありがとうございました。

国際奉仕委員会委員長／規則・手続委員会委員長

小船井 修一（釧路ロータリークラブ）



佐渡ガバナー年度で 2 つの委員会を担当しました。

地区国際奉仕委員会は、国際奉仕へのクラブの参加を促すという重要な役割を担っています。

2025 年 4 月釧路で開催された PELS、DTLS に参加し、分科会で国際奉仕委員長として毛事業計画を説明させていただきました。

年度スタート間もない 8 月に急遽入院そして手術を受けることになり地区大会を始めとした地区行事に参加することができず、ガバナーを始めとした関係の皆様にご迷惑をおかけしたことにお詫びいたします。

また、地区規則・手続委員会では佐渡ガバナー年度では規則・手続面で出番がなかったことはさしたる課題懸案事項がなかったという意味で幸いだったと思います。

2025-2026 年度を振り返って

ロータリー財団委員会委員長 細川 吉博（帯広北ロータリークラブ）



地区の皆様のご理解とご協力により頂いたロータリー財団の寄付により地区補助金事業が概ね順調に行われたことに深く感謝いたします。

また富良野ロータリークラブの松田先生の EPNC としてのご指導のもと、ポリオ根絶に対し地区としてしっかりと対応できました。

当地区の特徴としてグローバル補助金を用いた海外クラブとの事業に積極的であり、タイ、モンゴル、マレーシアなどとの対応で多くのロータリアンがロータリーの醍醐味、素晴らしさを実感したことと思います。

これからはさらに多くのクラブ、ロータリアンがロータリー財団に参加して頂けますことでロータリーの理解が進み、ロータリーの目的を達成できると信じています。皆様のご理解とご協力に、改めて深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

グローバル補助金チームリーダー 荒井 剛（釧路ロータリークラブ）



1 年間、本当にあっという間に過ぎました。

今年度は、友好地区であるタイ国 3330 地区との間で、衛生環境改善、妊婦の超音波検診機器の導入、そして、姉妹分区分となったモンゴルとの間では昨年度に引き続きメンタルヘルスの質の向上事業のほか、実験室にて使用する理科教材等の提供事業が行われました。事業に参画していただきました各クラブにあらためて感謝申し上げます。

そして、グローバル補助金事業の申請、承認、そして、現地（モンゴル、タイ等）で行われた贈呈式に実際に参加されたロータリアンの方々にも感謝申し上げます。

地区補助金と異なり、予算規模も大きく、実施可能件数が少ないこと、また、一定の英語が必須であるもののご数年、継続して 3 件以上のグローバル補助金事業を実施することができています。シェアシステムの元、当地区からロータリー財団に拠出された年次基金などを有効に活用できればと考えております。

1 年間、ありがとうございました。

地区補助金チームリーダー 本間 公三（網走ロータリークラブ）



佐渡年度における地区補助金利用プロジェクトは、24 事業ありました。複数のクラブが一つの事業で連携する案件もありましたので、参加ロータリークラブが 22 クラブ、ローターアクトクラブが 2 クラブ、地区の委員会が 2 委員会と多数の方々に利用して頂けたと感じています。

地区補助金の総額は 1,010 万円程ありましたが、6 事業が予算額をクリアする決算とならず、臨時費も使いませんでしたので、実際に利用したのは 930 万円程となり、80 万円を財団へ返納する結果となってしまいました。返納した額は DDF に繰り入れられ、5 年後（2032 年度）の 6 月 30 日までに使い切れればよい事となります。

地区補助金を利用する時の理想は、予算総額を少しオーバーするか、同額の決算額とすることです。ですから予算を組む時には「予備費」「雑費」などの詳細が分からない項目はなるべく設けず、確実に支出先が決まっている項目を計上して頂きたいと思います。ですので、予算を立てる時には、少しきつめの内容となるよう心掛けて頂ければ有難く、宜しくお願い申し上げます、私の振り返りとさせていただきます。

クラブ・サポート委員会委員長 鶴見 誠一郎（紋別港ロータリークラブ）



クラブ・サポート委員会では、各分区分ガバナーにご協力いただきながら、地区内クラブへの支援と情報共有の充実を目標に活動を進めてまいりました。しかし、第 2500 地区は北海道東部一円という広大なエリアを管轄しており、地理的条件から一堂に会しての研修会やセミナーの開催、参加者の確保には大きな課題があります。各クラブ間の移動には長時間を要し、日程調整も容易ではないことから、対面での事業を頻繁に実施することは現実的に難しい状況でした。

また、委員会活動は地区運営の一部であり、委員長の立場だけで独自にクラブを招集したり事業を企画・実施したりすることはできず、佐渡ガバナーの方針や地区行事との整合性を図りながら進める必要があります。そのため、委員会として主体的に取り組める範囲には一定の制約がありました。

そのような状況の中でも、リアル会場とオンラインを併用したハイブリッド形式による研修会を 1 回開催することができました。遠方クラブ会員の方々にも参加機会を提供できたことは大きな成果であり、広域地区における新たな運営方法として一定の可能性を確認することができました。一方で、オンライン参加者との双方向のコミュニケーションや、対面参加との一体感の醸成など、今後改善すべき点も見えてきました。

クラブ・サポート委員会の役割は、単に研修会を開催することだけではなく、各クラブが円滑に活動できるよう支援し、地区全体の活性化につなげることにあります。限られた活動機会ではありましたが、広域地区ならではの課題を改めて認識するとともに、今後は ICT のさらなる活用や関係委員会との連携を深めることで、距離の壁を越えた支援体制の充実を図る必要性を強く感じた一年でした。

2026-2027 年度は、他の方が委員長を務めるので、私は地区役員の一員として遠くから見届けたいと思います。ぜひ何かを残してほしいと思います。

IM 開催報告

【第 1 分区】 ガバナー補佐：常磐井武栄（利尻島 RC）



国際ロータリー第2500地区第1分区IM開催は、去る5月30日利尻町杵形に於いて、第1分区ガバナー補佐常磐井武栄が主宰となり盛大に開催されました。

今回のIM開催テーマは『未来を紡ぐロータリー』と題して、未来に繋がるロータリーの歩みを確実なものにするための叡知と工夫を感じながら、いつでもチャレンジ精神で邁進する利尻島IMであって欲しいと願いつつ、魅力溢れる発信とやりがいの下に、ロータリーライフを楽しむ姿勢を大切に、会員数が少ない利尻島RCがホストクラブとして、藤井会長・中川原実行委員長をはじめとする各会員が一丸となって、式典から基調講演・楽しさと思い出が残る祝宴と清興を開会し、佐渡正幸ガバナー御夫妻の御臨席をはじめ、小谷典之バスターガバナー、各分区ガバナー補佐及び地区役員・IM基調講演の神居ウスキー創業者ケーシー・ウォール氏、上遠野浩志利尻町長、そして多くの第1分区ロータリアンが一同に集い、厳粛且つ盛大に開催叶いました。

佐渡正幸ガバナーの明るく逞しいロータリービジョンを正々堂々と展開すべく、ロータリーの原点に立ち返って一期一会の精神で、乗り越えることが叶いました。世の中の情勢は刻一刻と変化を告げており、特に世界平和を推進するロータリアンにとっても、各ロータリアンの親睦の輪がより一層強く結ばれ、光り輝く実り多きものとなれば光栄且つ嬉しく存じます。

結びにあたり、IMへ御参加及び御協賛賜りました、全ての皆様に対して心より感謝と御礼を申し上げます。これからも国際ロータリー第2500地区をはじめ、第1分区各クラブの愈々の御繁栄とロータリアン皆様の益々の御活躍を御祈念申し上げIMの報告とさせていただきます。

【第 2 分区】 ガバナー補佐：西浦岩雄（中頓別 RC）



羊の里として知られている士別ロータリークラブの担当でIMが5月23日士別グランドホテルで開催されました。

第2分区の5クラブから129名の参加者が一同に集い、今回のIMのテーマでもある「クラブの町のECOな取り組み事例」のもとに基調講演として士別市環境センター 今井博明所長をはじめ 小林宏之主査に「ゴミ細分化への取り組み」と題して講演していただきました。Recycle、Reduce、Reuseなどで再利用することを主に焼却処分をしないで処理すること、できるだけ少しでもごみを減らす対策を掲げて取り組んでいることが紹介されていました。

またミーティングでは美深をはじめとして各クラブの代表が各クラブの「ECOな取り組み事例」をプレゼンしていただきどのクラブも、ごみの回収や地元の資材や原料を使った取り組みが紹介されていました。参加したロータリアンも感心して聞き入り時間が経過するのを忘れるくらい盛り上がりました。

さて懇親会の司会も士別ロータリークラブの谷温恵さんのスムーズな進行のもとで和気あいあいの雰囲気が会場にあふれ、抽選会では各クラブから持ち寄ったグッズに一喜一憂しながら楽しいひと時を満喫しました。改めて士別ロータリークラブの皆さんをはじめ第2分区の皆さん、ありがとうございました。

地域に根ざす奉仕の実践 地区補助金事業報告

遠軽ロータリークラブ

遠軽町役場総合庁舎落成記念 デジタルサイネージ贈呈事業

遠軽ロータリークラブは、遠軽町役場総合庁舎の落成を記念し、「デジタルサイネージ贈呈事業」を実施した。本事業は、来庁者への情報提供機能の向上と地域情報の発信強化を目的に、行政情報や観光情報、防災情報、地域イベント情報などを効果的に発信できる環境を整備するものである。地区補助金を活用してデジタルサイネージを寄贈し、町民サービスの向上と地域活性化への貢献を目指した。

設置されるデジタルサイネージは、行政からのお知らせをはじめ、観光案内や各種イベント、防災情報などを視覚的かつ分かりやすく発信できる設備として活用される予定であり、来庁者だけでなく町民や来訪者にとって利便性の高い情報提供ツールとなることが期待されている。また、紙媒体では伝えきれない情報をタイムリーに発信することで、役場庁舎の情報発信機能の充実にも寄与する。

なお、新庁舎の完成が事業年度内に間に合わなかったことから、完成に先立ち町長室において目録贈呈を実施した。本事業は、新庁舎の完成を契機に、行政と地域をつなぐ情報発信環境の充実を図るとともに、町民にとってより身近で利便性の高い公共空間づくりに寄与する取り組みとして、今後の活用が期待される。



旭川モーニングロータリークラブ

旭川のちいさな自然を再生するプロジェクト

旭川モーニングロータリークラブは、「旭川のちいさな自然を再生するプロジェクト」を実施した。本事業は、かつてサケやサクラマス産卵が確認されていたものの、近年は産卵床が確認されなくなった河川環境の再生を目指し、川本来の環境を取り戻す活動と地域の自然への理解を深める環境学習を組み合わせた3ヵ年計画の取り組みである。

事業では、旭川市地域振興課や北海道開発局、あさひかわさけの会など関係機関と連携しながら現地下見を実施したほか、サケの会案内人養成講座に参加し、サケの生態や忠別川の自然環境について座学と現地実習を通じて理解を深めた。9月にはサケの遡上観察会を開催し、実際にサクラマスの遡上を確認するとともに、河川環境の現状や保全の必要性について参加者が学ぶ機会となった。

翌年度には遡上ポイント周辺で河川清掃活動を実施し、自然環境の保全に向けた活動を展開。さらに旭川北彩都ガーデン付近では、サケの遡上を願う桜の植樹を行い、旭川市長をはじめ関係団体や地域住民も参加するなど、多くの人々が自然保護への思いを共有した。本事業は、地域の自然環境を未来へ引き継ぐため、行政や関係団体、市民との連携を深めながら環境保全への意識を育む機会となり、地域に根ざした継続的な奉仕活動として着実な歩みを進めている。

地域に根ざす奉仕の実践 地区補助金事業報告



帯広ロータリークラブ

地域の環境と財産を守り未来へつなげる事業 ～帯広の森の環境維持管理活動支援プロジェクト～

帯広ロータリークラブは、「地域の環境と財産を守り未来へつなげる事業～帯広の森の環境維持管理活動支援プロジェクト～」を実施した。本事業は、地域の貴重な自然資源である帯広の森を次世代へ引き継ぐことを目的に、環境維持管理活動への支援を通じて自然環境の保全と環境学習の充実を図る取り組みである。地区補助金を活用し、森林維持活動に必要な焚き火用ドラム缶や子ども用ヘルメット、研修用大型モニター、看板塗料を寄贈し、安全性の向上と活動環境の充実に貢献した。

あわせて、約 30 名のクラブ会員が参加し、看板の塗装や外来樹木の伐採などのボランティア活動を実施。帯広市役所みどりの課と連携しながら、地域の自然環境保全に直接携わる機会となった。また、本活動に対して帯広市長から感謝状が贈られたほか、十勝毎日新聞社の取材を受け、環境保全活動の意義を地域へ広く発信する機会にもつながった。

森林環境の維持には継続的な管理と地域の協力が欠かせない。本事業は、帯広の森が地域にとってかけがえのない財産であることを改めて認識するとともに、市民・行政・ロータリークラブが連携して自然環境を守り育てる大切さを共有する機会となった。地域の貴重な財産を未来へ受け継ぐ活動として、今後の環境保全への意識向上にもつながる取り組みとなった。



釧路南ロータリークラブ

ひかりの未来青少年プロジェクト 2026

釧路南ロータリークラブは、2026 年 1 月 16 日、くしろウインターパーク会場で地区補助金事業「ひかりの未来青少年プロジェクト 2026」を実施した。本事業は前年度に好評を得た取り組みを継続・発展させたもので、地域資源を生かした体験活動を通じて青少年の健全育成と地域活性化を図るとともに、ロータリーが掲げる青少年奉仕の理念に基づき、指導力や社会性を育む機会の創出を目的として開催された。

当日は、湖畔小学校と朝陽小学校の合同サッカークラブの児童 20 名と保護者 15 名、クラブ会員 14 名が参加。ウインターパーク実行委員会の協力のもとイルミネーション設置を行い、地域を彩る光の演出を協働で完成させた。その後は綱引きやアイスホッケーシュートチャレンジ、アイスライダーなどの氷上ゲームを楽しみ、世代を超えた交流が広がった。また、子どもたちはインタビューや点灯式にも参加し、多くの人の前で自分の思いを伝える経験を重ね、自己表現力や主体性を育む機会となった。終了後には温かい食事と参加賞が贈られ、参加者同士の交流も深まった。本事業は、青少年の健全育成と地域住民との交流促進を図るとともに、地域の魅力を生かした奉仕活動として、今後の継続が期待される。



Welcome to Rotary!

新入会員紹介



【第1分区】利尻ロータリークラブ

桑田 大介 (くわた だいすけ)
金融業
1977年2月23日生 / 7月1日入会
地域活性化・社会貢献に少しでもお役に立てるよう努力してまいりたいと思います。
どうぞ、ご指導ご鞭撻のほど宜しく願い申し上げます。



【第3分区】旭川ロータリークラブ

中富 央 (なかとみ ひろし)
保険一般
1973年5月13日生 / 6月19日入会
2026年4月に旭川へ赴任いたしました。
ロータリークラブを通じて、地域に貢献できるよう努めてまいります。
ご指導のほどよろしく願いたします。



【第6分区】芽室ロータリークラブ

梶 明宏 (かじ あきひろ)
製糖製造業
1965年10月18日生 / 7月14日入会
皆さんと共に活動できることを嬉しく思います。



【第6分区】芽室ロータリークラブ

研谷 智 (とぎや さとし)
整形外科医
1963年2月24日生 / 7月14日入会
医療界だけでなく、地域の皆さんとの交流の中で、地域に貢献できるように頑張ります。



【第6分区】芽室ロータリークラブ

高野 満 (たかの みつる)
農業
1961年4月8日生 / 7月14日入会
ロータリー活動を通じて皆さんと交流を深めて地域に貢献したいと思います。



【第7分区】釧路ロータリークラブ

橋 啓介 (たちばな けいすけ)
信用金庫
1976年8月23日生 / 5月21日入会
ロータリークラブ活動を通じて、会員の皆様と繋がりを広げ、少しでも社会貢献できるよう努めてまいります。宜しくお願い致します。

物故会員



【第5分区】北見ロータリークラブ

松田 寿夫 (まつだ ひさお)
自動車部品販売
令和8年6月11日逝去 (享年77歳)

平成6年7月 入会
平成8年 国際青少年計画 委員長
平成11年 社会奉仕委員長
平成19年 職業奉仕委員長
平成22年 会長
平成27年 国際奉仕委員長
平成30年 SAA
令和2年 R財団委員長

寄付者報告

ロータリー財団

【第3分区分】 旭川南ロータリークラブ

村井 徹 (むらい とおる)

【寄付月日】 2026 年 2 月 26 日

【寄付種類】 PHF

ロータリー財団

【第3分区分】 旭川東北ロータリークラブ

釋 英照 (しゃく えいしょう)

【寄付月日】 2026 年 2 月 24 日

【寄付種類】 MPHf + 4

ロータリー財団

【第3分区分】 旭川モーニングロータリークラブ

桑原 義彦 (くわばら よしひこ)

【寄付月日】 2025 年 11 月 28 日

【寄付種類】 MPHf + 5

ロータリー財団

【第7分区分】 釧路南ロータリークラブ

小向 建一 (こむかい けんいち)

【寄付月日】 2026 年 6 月 26 日

【寄付種類】 PHF

米山功労者

【第7分区分】 釧路北ロータリークラブ

佐々木 隆哉 (ささき たかや)

【寄付月日】 2026 年 6 月 4 日

【米山功労者】 1 回

ロータリー財団

【第3分区分】 旭川南ロータリークラブ

石川 雅之 (いしかわ まさゆき)

【寄付月日】 2026 年 2 月 26 日

【寄付種類】 PHF

ロータリー財団

【第3分区分】 旭川東北ロータリークラブ

能任 利明 (の と し あ き)

【寄付月日】 2026 年 2 月 24 日

【寄付種類】 MPHf + 4

ロータリー財団

【第3分区分】 旭川モーニングロータリークラブ

坂本 信一 (さかもと しんいち)

【寄付月日】 2025 年 11 月 28 日

【寄付種類】 MPHf + 1

米山功労者

【第4分区分】 紋別港ロータリークラブ

河野 通彦 (こうの みちひこ)

【寄付月日】 2026 年 6 月 23 日

【米山功労者】 2 回

ロータリー財団

【第3分区分】 旭川南ロータリークラブ

寺倉 美佳 (てらくら みか)

【寄付月日】 2026 年 2 月 26 日

【寄付種類】 PHF

ロータリー財団

【第3分区分】 旭川東北ロータリークラブ

黒滝 めぐみ (くろたき めぐみ)

【寄付月日】 2026 年 2 月 24 日

【寄付種類】 PHF

ロータリー財団

【第3分区分】 旭川モーニングロータリークラブ

飯塚 達夫 (いづか たつお)

【寄付月日】 2025 年 11 月 28 日

【寄付種類】 MPHf + 1

米山功労者

【第6分区分】 帯広西ロータリークラブ

奥 敏則 (おく としのり)

【寄付月日】 2026 年 5 月 25 日

【米山功労者】 6 回

例会出席率 & 会員数推移 (2026 年 6 月末報告)

分 区	クラブ名	例 会 数	出 席 率 (%)	会 員 数					
				前月	当月	増減	女性 会員	入会	退会
1	礼文	2	59	13	13	0	0	0	0
	利尻	4	61	21	21	0	2	0	0
	利尻島	1	33	14	13	-1	0	0	1
	天塩	1	75	16	16	0	3	0	0
	豊富	3	100	20	20	0	1	0	0
	稚内	3	83.5	42	40	-2	2	0	2
	稚内南	3	83	36	35	-1	1	0	1
				162	158	-4	9	0	4
2	美深	3	80	27	27	0	1	0	0
	枝幸	3	57.3	25	25	0	0	0	0
	名寄	4	70	50	50	0	2	0	0
	中頓別	2	72	11	11	0	0	0	0
	士別	3	94.93	46	43	-3	1	0	3
				159	156	-3	4	0	3
3	旭川	4	56.45	102	100	-2	11	2	4
	旭川東	2	64.29	28	28	0	0	0	0
	旭川北	3	-	52	50	-2	4	0	2
	旭川南	3	81.11	30	29	-1	2	0	1
	旭川西	3	-	45	44	-1	5	0	1
	旭川東北	2	79.63	18	18	0	1	0	0
	旭川MRC	2	97.83	23	22	-1	4	0	1
	旭川空港	3	85.5	16	16	0	2	0	0
	美瑛	4	64.1	32	32	0	2	0	0
	富良野	4	66.5	47	44	-3	3	0	3
	上川	3	-	11	11	0	1	0	0
	2500E	4	52.77	18	18	0	3	0	0
				422	412	-10	38	2	12
4	遠軽	4	74.4	48	48	0	3	0	0
	紋別	4	52.85	32	32	0	2	0	0
	紋別港	5	68.97	30	30	0	3	0	0
	興部	4	80	15	14	-1	1	0	1
	雄武	4	58.33	12	12	0	0	0	0
	滝上	3	69	14	14	0	1	0	0
				151	150	-1	10	0	1

第2500地区	前月末 会員数	当月末 会員数	増 減	平均出席率
	2297	2212	-85	70.62
女性会員数	186	175	-11	

分 区	クラブ名	例 会 数	出 席 率 (%)	会 員 数					
				前月	当月	増減	女性 会員	入会	退会
5	網走	3	89.67	52	50	-2	6	0	2
	網走西	3	81.05	54	52	-2	4	0	2
	美幌	4	87.5	53	52	-1	5	0	1
	北見	4	62.06	61	58	-3	8	0	3
	北見東	3	88.15	47	45	-2	3	0	2
	北見西	3	87.2	68	66	-2	6	0	2
	清里	2	82	31	29	-2	0	0	2
	留辺蘂	4	85.71	22	21	-1	0	0	1
	斜里	3	65.5	30	27	-3	4	0	3
				418	400	-18	36	0	18
6	足寄	2	52	25	24	-1	2	0	1
	広尾	3	44	18	18	0	1	0	0
	上士幌	3	71	15	15	0	0	0	0
	芽室	3	95.3	21	19	-2	1	0	2
	帯広	4	63.7	90	82	-8	11	1	9
	帯広東	3	72	36	36	0	3	0	0
	帯広北	3	59.64	59	55	-4	4	0	4
	帯広南	3	71.89	65	65	0	8	0	0
	帯広西	3	66.8	86	83	-3	9	0	3
	音更	4	71.4	42	41	-1	6	0	1
	清水	5	69	20	20	0	2	0	0
				477	458	-19	47	1	20
7	釧路	4	90.1	107	106	-1	1	1	2
	釧路東	3	55	28	26	-2	0	0	2
	釧路北	3	63	85	81	-20	6	0	20
	(サテライト)			14	0		0		
	(ルミナス)			10	8		8		
	釧路南	3	51	27	26	-1	5	0	1
	釧路西	2	60	26	26	0	2	0	0
	釧路ベイ	3	65	20	18	-2	2	0	2
	音別	3	80.9	14	13	-1	0	0	1
	白糠	4	63.6	11	11	0	1	0	0
				342	315	-27	25	1	28
8	厚岸	5	85.7	14	14	0	0	0	0
	浜中	4	78.4	10	9	-1	0	0	1
	中標津	2	37.8	45	45	0	4	0	0
	根室	4	75	31	31	0	0	0	0
	根室西	3	73.6	48	47	-1	1	0	1
	弟子屈	2	69	18	17	-1	1	0	1
			70.62	166	163	-3	6	0	3
				2297	2212	-85	175	4	89

「令和 7 年青森県東方沖地震」 支援金のご協力について

令和 7 年 12 月 8 日に青森県東方沖で発生した震度 6 強の「青森県東方沖地震」において、過日ご協力をお願いをさせていただきました支援金につきましては、多くのクラブ様から温かいご支援をいただきました。

このたび寄せられた第 2500 地区の支援金総額は **1,144,616 円**となりました。

2025-26 年度ガバナー事務所より災害対策本部へと責任をもってご寄付させていただきましたことをご報告させていただきます。

この貴重な支援金は、震災で被害を受けた地域の復興活動や生活再建、さらには心のケアに役立てられる予定となっております。被災地では、依然として厳しい状況が続いておりますが、皆様のご支援によって、少しでも早く日常生活を取り戻すことができると信じています。ご協力の輪が広がり、多くの皆様の支援をいただきました事、改めまして感謝申し上げます。

今後とも引き続きのご協力を宜しくお願い申し上げます。